

リメンバーin岡崎・1月22日

昨年度も行いました「リメンバーin岡崎」を今年度も2012年1月22日に行うことに決まりました。

午前は遺族向けセミナー、午後は普段の遺族会と同じ、遺族のわちあいの時間です。

今回の「遺族向けセミナー」には、哲学者の鷺田清一さんをお招きすることになっています(予定)。鷺田さんは『「聴く」ことの手』『死なないでいる理由』など数多くの本を書かれ、ご存知の方も多いかと思います。

哲学というと難しい、堅いイメージをお持ちかもしれませんが、気さくにわかりやすくお話くださる方です。「哲学は研究者のものではなく、市民一人一人が身につけなければならない生きるための武器のようなもの」(インタビュー記事)ともお話しされています。タイトル、内容はまだ未定ですが、「身近な人の自死をどう受け止め、どう生きて行くか」のような方向でお願いしているところです。まだ、詳細など決まってないこともありますが、今後決まり次第お伝えしていきたいと思っています。

リメンバー名古屋自死遺族の会 in 岡崎

日時: 2012年1月22日(日)

- 10:30-16:00(予定)

内容:

午前・遺族向けセミナー

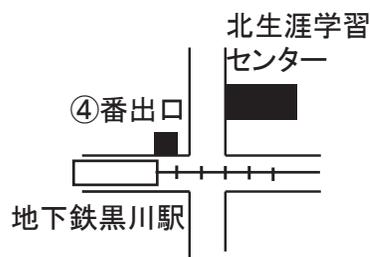
- 鷺田清一氏(予定)
- 前大阪大学総長。大谷大学教授。
- 哲学者。
- 「『聴く』ことの手」

- 「死なないでいる理由」など著書多数。
- 昼・図書コーナー(リメンバー文庫)を開設
- 午後・自死遺族のわちあい
- 普段の遺族会と同じ「わちあい」を行います。
- 場所: 岡崎市 岡崎げんき館
- 愛知県岡崎市若宮町2-1-1
- ※地域自殺対策緊急強化基金事業

次回の遺族会

第48回

10月16日(日)13:15から
名古屋北生涯学習センター
地下鉄名城線「黒川」下車
(4番出口)よりすぐ
参加費:500円



その次は...

第49回

12月25日(日) 北生涯学習センター

「千の風の会」(岐阜)シンポジウムのご案内

岐阜県の自死遺族の会である「千の風の会」、岐阜県精神保健福祉センター主催で、以下のように、シンポジウムが行われます。よろしければご参加ください。

様々な立場からの自死遺族の想い

日時: 2011年10月23日(日)

- 14:00-16:30(開場:13:30)

場所: 羽島市文化センター 401大会議室

- 岐阜県羽島市竹鼻町丸の内6-7
- 名鉄羽島線
- 羽島市役所前駅から徒歩約15分

内容: 1.「千の風の会」の歩み紹介

- 2.シンポジウム
- 自死遺族の対場から、支援者側の立場から
- 3.フリートーク
- 主催: 岐阜県精神保健福祉センター
- 千の風の会(自死遺族の会)
- 問合せ: 岐阜県精神保健福祉センター
- 058-273-1111(内線2252)
- ※申し込み不要・入場無料

連載 わかちあいって何だろう？

「わかちあいって何だろう？」と題して、遺族の方のインタビューを中心に連載を行っています。

「わかちあい」は、リメンバー名古屋自死遺族の会において、最も大切にしているものです。簡単に言ってしまうと、集まって、話す、ただそれだけのことでありますが、普段なかなか自死について語るができない中で、とても大切な役割を担っていると思います。

参加された方からは、もっといろんな方と話したい、堅苦しいルールがあるから話しにくい

など、さまざま意見もいただいています。また、自分がつらいのに、なぜ他人の辛い話を聞かなければならないのか、聞くことでもっと辛くなってしまう。話しても何も解決しない、話すことに意味があるのか、という根本的な疑問を投げ掛けられることもあります。

専門的、学術的なことではなく、実際にわかちあいを経験されてきた方の生の声を聞き、これから、もう一度「わかちあい」を見つめ、考えていきたいと思っています。

遺族インタビュー 第3回

—亡くされたのはどなたですか？

当時19歳の長男です。

—参加される前はどんなお気持ちでしたか？

極限の混乱と絶望の中にいました。

リメンバー名古屋はインターネットで見つけました。どうしようかと迷いましたが、開催場所が私にとって親しみのある場所だったので、様子を見るつもりで参加しました。

—はじめて参加されたのは亡くされてからどのぐらいしてからでしたか？

約2ヶ月でした。

—はじめて参加された時にはどんなことを感じましたか？

葬儀以降初めての外出でした。

世界がセピア色になり、バス車内の会話がとても苦痛で、会場に行くだけで疲弊しました。一方で、このような会があることを知り、驚きました。

息子の自死について語るができ、他の遺族の話聞くことができたこと、このような会をつくって運営しているスタッフがいることにも驚き、感謝しました。

—今までどのぐらい、期間、回数参加しました

か？

約4年間で10回前後の参加だと思います。

—どのような思いでわかちあいに参加し、参加することで変わったことはありますか？

当初は自分の後悔や自責感、息子への思いなどを、とにかく語り、混乱して整理がつかない様々な思いについて、なんとか整理、消化をしようとしていたような気がします。

その後、徐々に他の遺族の方々のお話を聞けるようになり、その内容を自分と照らし合わせながら、混乱した様々な状況やこの衝撃的な出来事についての意味、自分自身のこれまでの生き方とこれからの生き方、それまで信じてきた価値観の否定と見直し、現在、過去、未来の時間と空間や人間と世界に関する概念についてなど、踏み込んで考えるようになっていきます。

—あなたにとって「わかちあい」って何でしょうか？

それは「死」と「破壊」、「混乱」や「絶望」からの「落ち着き」と「再起」「再生」、そして大切な息子（家族）を亡くした後の旅路の「再出発」への扉だと感じています。

—ありがとうございました。

第14回秋の遠足のお知らせ-11月6日



恒例の秋の遠足を以下のように行います。いつも遺族会でお会いする皆さまと、ゆっくりと過ごしませんか。

つらいことは忘れて・・・ということではなく、参加者の方同士、少しでも親しくなり、遺族会以外でも支えあえる関係になればとの思いから行っています。

遺族会に参加したことのある方ならどなたでもご参加になれます。

■日時:2011年11月6日(日)

午前11時00分～16時ぐらいまで

■集合場所:11:00 地下鉄鶴舞線平針駅(改札)または、現地

※現地集合の方は事前にお知らせください。

■行き先:名古屋市農業センター

名古屋市天白区天白町大字平針字黒石2872-3

※雨天時も決行します

■参加費:現地までの交通費・昼食代

■昼食:お持ちいただくか、センター内の軽食レストランにて

■申し込み先:リメンバー名古屋事務局(メール・ファックス・郵便等で)

お名前(ニックネーム可)、ご連絡先(メール、電話、FAXなど)をお知らせください。

Eメール:remember_nagoya@yahoo.co.jp

FAX:020-4668-8925

郵便:〒458-8799 緑郵便局留め

リメンバー名古屋宛て

■申し込み期限:11月3日(木)まで

■キャンセルについて:

お申し込み後、キャンセルの方は集合時間までにご連絡ください。

「親の会」次回のお知らせ-2月4日

リメンバー名古屋に来られた方の中で、お子様を亡くされた方だけの集まりである「親の会」というものがあります。不定期ですが、集まって話す場を設けています。今回は以下のように行うことになりましたのでお知らせいたします。

「温泉に入ってゆっくり過ごす会(仮)」

■日時:2012年2月4日(土曜日)

■場所:三谷温泉(ホテル松風園)

お昼を食べて温泉に入って6時間

個室でゆっくり語り合い

■費用:5800円プラン+交通費

■申し込み期限:2011年12月末

■申し込み先:リメンバー名古屋事務局(メール・ファックス・郵便等で)

お名前(ニックネーム可)、ご連絡先(メール、電話、FAXなど)をお知らせください。

Eメール:remember_nagoya@yahoo.co.jp

FAX:020-4668-8925

郵便:〒458-8799 緑郵便局留め

リメンバー名古屋宛て

遺族相談のご案内

面接による自死遺族相談(無料)があります。よろしければ、ご利用ください。

○愛知県精神保健福祉センター

(愛知県内で名古屋市以外にお住まいの方) ■

要予約 052-962-5377

毎月第3木曜日 午後2時-3時30分

○名古屋市精神保健福祉センターこころば

(名古屋市内にお住まいの方)

要予約 052-483-2095

毎月第3火曜日 午前10時-12時

ご寄付お礼

新聞等にお取り上げいただき、冊子「自死遺族の手紙」は多数のお申込みをいただきました。その際、お手紙と共に、切手を多くいただいたり、ご寄付いただいたりしました。本当にありがとうございました。

12月25日遺族会終了後「望年会」を予定しています。

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。

遺族会当日に、お茶の買い出し、参加者の案内など、継続的でなくても結構です。

詳しくはお問い合わせください。

新聞郵送をご希望の方へ

1月～6月末までのお申し込み(前期)・・・1000円 もしくは 80円切手13枚

7月～12月末までのお申し込み(後期)・・・500円 もしくは 80円切手7枚

お申込みは、郵便番号・住所・氏名を記入の上ご送金いただくか、切手をご郵送ください。遺族会の当日、受付でお支払いいただいても結構です。

リメンバー文庫



リメンバー文庫では、遺族の方向けの書籍を集め、遺族会の時などに貸し出しを行っています。今回は、文庫の中から「悲しみをみつめて」(C.S. ルイス著)を紹介させていただきます。

今回のリメンバー文庫の紹介は、C.S.=ルイスの『悲しみをみつめて』です。C.S.=ルイスは、日本では、2005年からシリーズで映画化されている「ナルニア国物語」の原作者として知られているかと思えます。ルイスは英文学者であり、「ナルニア国物語」を始めとする、童話作家・科学小説家でもあり、そして、キリスト教伝道者として、数多くの著作を残しています。ルイスの友人で、詩人・英文学者のキャスリン=レインは、「まれに見る恵まれた人間の一人だった。」と証言するほど、順風満帆の人生を送ったように見えたようです。

本書で、ルイスは、「H」というイニシャルの女性を悼んでいます。「H」とは、ヘレン=ジョイ=デイヴィッドマンという、ユダヤ系アメリカ人女性で、詩人・批評家として活躍しました。ルイスの熱烈な信望者であり、ルイスの影響化に、ユダヤ教からキリスト教に改宗し、ルイスと再婚を果たしました。ルイスはこのとき59歳。しかも花嫁のヘレンは、末期がん侵され、病床での結婚式となったのです。

遠からず訪れるであろう死別に、この聡明な2人は、愛と誠をもって、応え合っていました。しかし、ヘレンの死後、「悲しみがこんなに畏れに似たものとは思わなかった。」と語るルイスの悲嘆は、計り知れないものでした。学生時代から、抜きん出て優秀で、順風満帆な人生を送っているかのように見えた、ルイス。しかし、愛妻を亡くしたことで、これほどまでに傷つき、取り乱し、パニックを起こすまでになってしまったことが、事細かに記されています。本書は、愛妻「H」を喪った後、ルイスの詩とも日記ともいえる様な書きつ

けをまとめ、出版されたものです。

本書には、多くのキリスト教や英文学の概念や用語、思想が出てきます。日本人の私にとっては、最も難読した本の一つでもあります。しかし、なぜか本書に魅かれ、皆さんに紹介したいと思うのです。それは、たとえ国が違っても、宗教が違っても、辿ってきた歴史が違っても、人生が違おうとも、死別に伴う悲嘆の計り知れなさは、人類共通のものであるからだと思えます。

難しいキリスト教や英文学の言葉が並んでいても、ルイスは、私と同じく、世界で最も愛する人を喪う、という衝撃にかくも嘆き悲しんだことが、伝わってくるのです。そして、ルイスはそこから、深い思想を生みだします。死別の悲嘆により、全てがマイナスに見えたとしても、ルイスは、そこから再生することを、本能ともいべき感覚で、成し遂げたのだと思えます。そして、ルイスのその感覚・感性が、本書を通じて、訴えかけるのです。

死別という、神からの最も残酷な仕打ちから、再生を果たした一人の人間の言葉が、そこには詰まっています。

(A. S)

★★★★本の紹介★★★★

悲しみをみつめて
C.S. ルイス (著)
西村 徹 (翻訳)
新教出版社
価格: ¥ 2,100

りめんぼー

「死なないでいる理由」。

タイトルに惹かれ、手に取りました。1月にセミナーの講師でお招きする鷲田さんの本です。似た問いかけである「生きる意味」。一般的にはこちらの方がより多くの方が考えていることかもしれません。

生きることがあたりまえであり、そこに疑いが無い時、「生きる意味」は、より積極的な人生への意味づけ、方向性を与えるものであり、その時、「死なないでいる理由」は問う必要さえ無いものなのでしょう。しかし、ひとたび「生」にぐらつきが生じ、「死」がよりリアルな感覚として獲得されてしまった時、人は「死なないでいる理由」を問い始めるように思えます。その時、「生きる意味」は「死なないでいる理由」と同化し、それが無いと生きることが困難な、切実な存在となっていくのではないのでしょうか。

自分自身の事を考えてみた時、身近な者の自死が、自分の基準点を大きく死へ動かし、「死なないでいる理由」を求め始めたように思えます。

秋になり、色づき、散っていく木々の葉に、人は生命のはかなさを感じてきました。それぞれの木の葉に「生きる意味」を問うてみるのができたなら、何か素敵な答えを返してくれるかもしれません。しかし、「死なないでいる理由」を答えてくれるものはいないでしょう。多くの生命と「はかなさ」を共有しているつもりでも、「死なないでいる理由」は人間だけが背負わなければならないものなのかもしれません。

「『死なないでいる理由』はわたしの終生の主題であると思いを定めていいのだろう」と書かれている鷲田さんのご講演を心待ちにしたいと思います。(KN)